

### 3. FD プログラムの開発

#### 3-1 スマートフォンを活用した FD

##### i. 目的

アクティブ・ラーニングを推進するために、「スマートフォンを活用した授業改善ワークショップ」を開催した。本ワークショップは 2017 年度から実施した新しい企画である。本ワークショップでは、昨今の大学における ICT 機器の導入事例を紹介し、授業改善の中で学生アンケートや理解度テストの重要性について解説した。また、全学的に導入されている Office365 のアプリケーション「Form」を使って授業の中で実施する予定のアンケートや小テストを開発した。

##### ii. 概要

###### ■開催時期

平成 29 年 12 月 15 日（金）16：30～18：00

###### ■会場

地域創生・国際交流会館共用室 301

###### ■参加者

10 名

###### ■研修の目標

- 1) 大学における ICT 機器の導入事例についての解説
- 2) 授業改善における学生アンケート・理解度テストの活用方法
- 3) Office365 のアプリケーション「Form」を使って授業の中で実施する予定のアンケートや小テストの開発

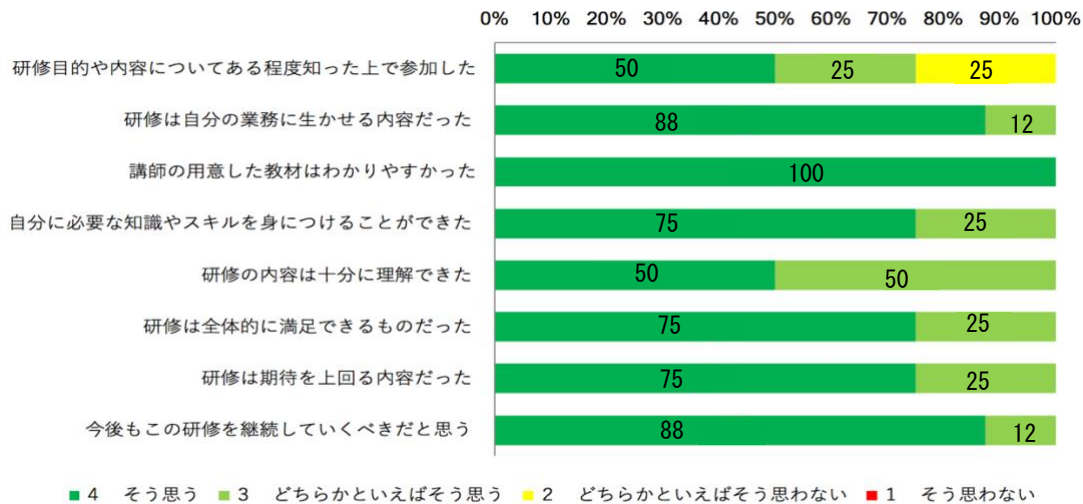
###### ■担当講師

総合教育センター教育改革推進部門 特任助教 上田勇仁

##### iii. 成果・課題

アンケートから「研修は全体的に満足できるものだった」、「今後の研修を継続していくべきだと思う」などの項目について参加者全員が肯定的な回答を示した。ワークショップの中でのディスカッションにおいても日頃、紙のアンケートやクイズを実施しているが回収や採点についての負担が多く、今回紹介したアプリケーションを直ぐに取り入れたいという要望が多かった。マイナビが行った調査によると 90%以上の大学生がスマートフォンを所有しており、今後もコミュニケーションツールの中心にスマートフォンが位置づけられると考えられる（マイナビほか 2017）。学生にとってもスマートフォンを使ったアンケートや小テストの実施についての抵抗感は少なくなり、スマートフォンを活用したワークショップの要望が増えていくと想定される。

自由記述においては、「もう少し時間を長くとる。研修をシリーズ化する」「実技の時間がもう少し長かったらよかったです。」などの要望があり、ワークショップ実施時間内にアンケートや小テストを全て完成させることができなかつたことが考えられる。今後はワークの時間を一定時間確保する必要がある。また、本ワークショップを継続していくとともに、発展的な内容についても検討を進めていきたい。



### 本ワークショップ終了後のアンケート (n=8)

3

下の1~4の文は、次の図2中D~G付近のいずれかにおける代表的な植生観と人間活動について述べたものである。Eに該当するものを、下の1~4のうちから選べ。  
平成29年センター試験地理A【知識】 \* (20点)



図 2

- 1. 広大な草原がみられ、砂漠化防止のための取組が行われている。
- 2. 広葉樹を主体とする森林で、甘味料の原料がとれる樹木がある。
- 3. 針葉樹を主体とする森林で、林業が盛んである。
- 4. 草原のなかに樹木が分布し、野生動物が観光資源になっている。

### 本ワークショップで示したクイズの例

【参考】 次の URL・QR コードからサンプルを確認できます。

URL: [goo.gl/KPhW54](https://goo.gl/KPhW54)



## 3-2 「AttracTube」 実施報告

### 1) 概要

学生と教員が授業の方法や質の向上について議論することの可能な FD プログラムを開発するため、本年度より「AttracTube (アトラクチューブ)」と題して、学生が企画・運営・実施する学生参加型 FD を試行した。以下では、その背景、実施方法、ならびに成果の報告を行う。

### 2) 背景

AttracTube を企画した背景として、以下の 2 点が挙げられる。

第 1 の点は、近年様々な大学で「学生参画型 FD」あるいは「FD 活動」と呼ばれる実践が広がっていることである。対して徳島大学では、学生自身が企画・運営する FD はこれまで行われてこなかった。本企画にかかわった学生スタッフ 4 名のうち、特に本企画の立ち上げにかかわった学生スタッフ 2 名はこれまで、教育改革推進部門において学生アルバイトとして任用され、FD の運営補助業務に従事する中で次第に、こうした学生参画型 FD が徳島大学においても必要なのではないかと考えてきた。

第 2 の点は、質の高い授業事例を共有する必要性が高まっていることである。平成 28 年度の「学生の学修に関する実態調査 (Learning Life)」では、問 84「授業評価アンケート結果は授業改善に活用されていると思う」に対する肯定的な回答は、約 3 割という低い水準となった。こうした実態の背景として、学生が大学における授業の質に、全体として満足していない可能性が考えられる。実際に、学生スタッフからは、様々な場で同級生などから「大学における授業に満足していない」と主張する学生の声を耳にすることが多いと感じるといふ声が聞かれた。

一方で、学内において実施されている全ての授業が、学生からの評価が低い訳ではなく、学生から授業内の取組や教員の姿勢が高く評価されている授業も存在している。実際に、学生スタッフがこれまで受けてきた授業のなかにも、充実感をもって主体的に課題に取り組むことができ、その後の大学生活においても影響を受けたような授業が存在した。以上のような現状を鑑みると、学生から授業内での取組や教員の姿勢について高い評価を受けている授業事例について、教員・学生が意見交換することのできる取り組みが必要なのではないかと考えた。

### 3) 実施方法

以上の背景から、徳島大学において新しい学生参画型 FD を実施するにあたり、本企画ではすでに大学改革への学生参画を進めてきた「教育について考え提案する学生・教職員専門委員会」のもとに、新たなワーキンググループとして「授業デザイン発信ワーキンググループ」を設置し、このグループを中心に活動を進めることとした。本 WG には立ち上げ当初

から学生スタッフ 2 名が参加しており、その後さらに 2 名の学生が参加し、平成 29 年度は 4 名の学生委員と 1 名の教員によって運営を行った。

WG の活動は、基本的に以下の 2 つを目的とすることとした。

- ① 学生委員がこれまで受講した中で、質が高く有意義だったと考える授業を選定し、これを対象に、その授業における教員の取組が分かるような映像資料を作成する。
- ② ①で作成した映像資料を、学内の教員が視聴し、かつ映像資料の対象となった授業の実施者との教員が意見交換をしあうような FD を、学生委員が主体となって企画・運営・実施する。

この結果、平成 29 年度には学生から推薦された 2 つの授業について映像資料を作成し、この映像をもとに 2 回の全学 FD を実施するに至った。実施の詳細は以下の通りである。

	日時	対象授業	会場
第 1 回	平成 29 年 11 月 28 日 16:30～17:30	青矢睦月准教授 「岩石と鉱物」	徳島大学附属図書館ラーニングコモンズ
第 2 回	平成 30 年 1 月 19 日 16:30～17:30	荒木秀夫教授 「行動調査研究プロジェクト」	カフェスペース

#### 4) 成果と課題

第 1 回には学内から 15 名の参加者が、第 2 回には学内外から 16 名の参加者が参加し、活発な議論が為された。これまで、実際の授業事例についての学生にとっての意義についてやり取りする場はあまりなく、そうした機会を学生主導で創出した本企画は、一定程度の成功を収めたといえよう。





また、図書館のラーニングコモンズという実施場所の特徴から、第 2 回には通りがかった学外の図書館利用者が参加していた点も、興味深い点である。参加するには至らなかったが、実施中、教員の話や動画に足を止める学生も何名か見受けられ、こういった学生がさらに議論に参加しやすくする工夫が、今後の課題である。

他の課題として、学生委員の確保が挙げられる。本企画では、学生委員のなかに 1 名、趣味で動画の編集経験のある人材がいたため、この学生を中心に動画の編集作業を進めた。今後、こうした動画編集やイベントの運営に長けていたり、興味があるなどの学生を委員として集めることと同時に、こうした技術を他の学生委員にいかにか共有するかという点が課題となるであろう。また、今年度は教育改革推進部門が所有する PC だけでは動画編集が追い付かず、学生委員の私用の PC も用いて作業を進めた。この点についても、機材を拡充する等の何らかの対応が必要である。

